

# 義経の生涯とその伝承

じゅえい  
寿永三年(1183)、平家一門は都を落ち、あんとくてんのう  
安徳天皇を奉じて  
西国へと逃れました。じゅえい  
寿永四年(1184)2月、一の谷の合戦に  
おいて、みなもとよしつね  
源義経に奇襲をかけられた平氏軍は大打撃を受け、  
げんりやく  
元暦二年(1185)3月、だんのうら  
壇ノ浦において平氏軍は義経に敗れ、  
多くの平家一門は海に沈みました。

源氏の勝利の功労者である源義経は、兄である頼朝との不和  
により、鎌倉入りを許されず、ぶんじ  
文治三年(1187)におうしゅうふじわら  
奥州藤原氏  
のもとに逃れるも、ぶんじ  
文治五年(1189)、頼朝に屈したふじわらのやすひら  
藤原泰衡  
の襲撃によりその生涯を終えます。

義経は、その英雄的な功績と悲劇的な境遇から、様々な伝説や  
物語が生まれました。室町時代に成立した『ぎけいき  
義経記』をはじめと  
して、戦国期の芸能であるこうわかまい のう  
幸若舞や能、江戸時代のかぶき  
歌舞伎など、現在に至るまでも多くの人々に親しまれています。

富樫氏の館を舞台として展開するかんじんちょう  
「勧進帳」の物語も、『義経  
記』以降に記されるものですが、歌舞伎において人気を博し、富  
樫氏の名を多くの人々に伝えました。